

## 自己評価

### ※保育総評

前年度から継続して、会議や園内研修の実施、有効活用、そして共通理解を深めるよう計画や工夫を行った。会議内容の全職員への周知はまだ検討の余地があり、正確に効率よく伝達事項や情報を共有する方法が、次年度への課題となる。

園内研修は、年間でオンデマンド形式を取り入れ進めていった結果、多数の職員の受講が可能となったが、受講後の意見交換や日々の保育への浸透が十分にできるよう取り組み方を検討する。

「配慮が必要な子」が増えつつある中で、さらに職員同士のコミュニケーションを深め、相違する意見を認め合い、他機関との連携も深めていきながら、常に子どもにとってより良い保育とは何かを考え行っていきたい。

又、保育所での活動がどんな形で地域社会と繋がるのかを職員が理解し、積極的に関わりを持つよう、日々心掛けていく必要がある。

### ※給食総評

食育計画の見直しを行いながら、年齢や発達に合わせて食育活動を行ってきた。クラス担任とのやりとりをその都度行い活動を進めていったが、活動後の報告や課題等について、職員間で共有する場を設けることが不十分だったので、来年度は改善していきたい。

離乳食を含め、食の進め方やアレルギー対応については、疑問に感じた時、子どもとの関わりがうまくいかない時等、その都度会議等で提案し対処法を職員間で検討し合った。

地域への食育活動は、法人を通して少しずつ交流が増えた。保護者支援においてもお便りや現場の保育者を通して『食』への意識が高まるような活動を積極的に提案し、実施に向けて保育室と連携をとっていくことが今後の課題である。